

部 会 会 議 録

周南市まちづくり総合計画審議会・第1部会 第3回

日 時	平成16年8月19日(木) 14:00~15:40
場 所	みゆき通り庁舎2階 第5会議室
出席者	委員 9人 天野部会長、谷野委員、田村委員、内山委員、小林委員、山本委員、毒島委員、戸倉委員、片川委員
	事務局 8人 西村教育次長、松谷生涯学習推進課長、磯部企画財政部次長、渡辺人権推進課長、企画調整課(藤井、坂本、三川)、新南陽総合支所地域振興課(石川)
資 料	基本構想第5章・目標1と目標5の修正案、意見票(天野部会長、山本委員)

会 議 内 容

1. 審議

(1) 第6章 主要プロジェクトについて

(部会長) ここでいうプロジェクトの意味について事務局から説明を。内容というよりは、目標と別にプロジェクトを設定する意味について。

(事務局) 「私たちが輝く元気発信都市」という都市像を実現するために、まちづくりは人づくりということで「人」をテーマとして、4つの輝きプロジェクトを設け、具体的に何をやっていくかということをおげている。

計画を推進していく上での「特出し」として、重点的に施策として推進していきたいというものをここでプロジェクトとして位置づけている。

(委員) これに対応している基本計画はあるのか。どの部分か。

(事務局) プロジェクトの項目別に対応しているのではなく、全体の中に入っている。

(部会長) 重点的な施策をここで整理してあるということか。

(事務局) 基本構想であるので、10年間でやっていきたいということをおげている。

(委員) 周南市が目指すものはこういうことかということか。

(事務局) 5つの目標があるが、その中の特出しとして「人」についてこういうことをやっていきたいということである。

(委員) 県の計画でいうところの「～戦略」というのと同じか。

(事務局) そうである。

(委員) 「青少年健全育成プラン」など具体的な施策が書いてあるが、基本計画とダブるのは問題ないのか。

(事務局) ダブるというよりは、基本構想の下に基本計画があるということなので、基本計画にも入っているということ。

他の市の構想ではハード的なものがあげてあることが多いが、それについては第7章の推進方策の中で、新市建設計画の21のリーディングプロジェクトを推進していくということをおげている。

(部会長) 21のリーディングプロジェクトと、このプロジェクトというのは意味が違うのでは。

21のリーディングプロジェクトは具体的にどこに書かれているのか。

(事務局) 推進方策の中で21のリーディングプロジェクトを推進するというだけではあげているが、具体的には構想の中にあげていない。新市建設計画で掲げており、当然やっていかなければいけないことであるので、推進方策でいいのではないかと地域審議会からの意見もあった。

(委員) この第6章の書き方のほうが、こういうことをやるというのがわかりやすい。第5章自体をこういう書き方にしてはどうか。

(事務局) 基本構想は、これからのまちづくりの方向性を示す大綱であるので、第5章はこういう形になっている。しかし、プロジェクトはある程度具体化しなければいけないということで、第6章はこういう書き方になっている。第5章に関してのそれぞれの具体的な施策については、基本計画に掲げているということになる。構想の10年と計画の5年の差はあるが。

(委員) 今の10年と5年の差というのは具体的にはどういうことか。

(事務局) 基本構想は計画期間を10年間で設定しており、その下の基本計画については、前期と後期の5年ずつにわけて策定する。基本計画に書かれていることをどう具現化していくのは実施計画になり、これは3箇年のアクションプランであり、予算が決まれば3月に公表する。毎年、税の収入等が変わってくるので、施策の裏づけとなる財源の見直しをしながら、次の年からの3年間の実施計画を見直していくことになる。

(委員) 実施計画と主要プロジェクトは絡むのか。

(事務局) 基本構想で定めた方向性に基づき、基本計画でどういうことをやっていくのかということを決める。それを具体的にいつからやっていくというのが実施計画であるので密接に絡んでくる。

(委員) プロジェクトというのは、ある目標を目指して推進していく実施項目であるはずで、しほりこみが必要。ここでは、すべてを横断するような形でプロジェクトが掲げられて、大きなくりに整理されており、しほりこみになっていないのではないか。

(委員) プロジェクトという名前をつけるとすると、基本構想のここにあるのがいいのかどうか。

基本計画の第1章あたりであげるほうがよいのでは。

(事務局) やり方はいろいろある。例えば旧新南陽市では、基本構想ではなく基本計画にあげていた。

(委員) 主要プロジェクトがこれになった理由は、第5章のほうは全部を網羅するものなので、目指すべき都市像に向かってこういうことをやるというのでわかるが。

(部会長) 第5章では、こういうことをやっていきたいと思いますということが総体的に書かれており、その中で、一番大切なのは人材だということで、人材にかかるものだけを主要プロジェクトとしてピックアップしたということだろう。それは文章で書き加えるとしても、プロジェクトと基本計画との関係がすっきりしない。人に関することを特に重点的にやるということを書けばそれでよいのではないか。細かく書きすぎている気がする。

ここでは、こういうものが主要だということだけを書いておいて、基本計画でその主要なものに赤丸がついているといったような書き方であれば、もっとわかりやすい。つまり、第5章で総括的なことが書かれていて、第6章で、次のような観点から主要プロジェクトを選びます、ということが書かれていて、選んだ結果が、基本計画を見ると赤丸などで書かれている。そのような構造のほうがいかがかもしれない。原案では計画よりも細かいことが書いてあるので、わかりにくいのでは。

(事務局) プロジェクトが見えないと言うことで付け加えたもの。

(部会長) 逆に言うと、計画のほうを詳しくして、ここにはね返ってくればよいのではないか。ここで具体的なものをあげるとかえって混乱するかもしれない。全体会のほうでも議論したい。

(委員) 1(子どもが健やかに育ち活躍できるまちプロジェクト)と2(生きる力を学ぶことのできるまちプロジェクト)の内容が、1が子どもで2が大人のようなのだが、完全にはそうになっておらず、かぶっているところもあるようだ。2が大人だとすると「生きる力を学ぶ」というのもどうか。

(部会長) 表題があっていないのかもしれない。2のほうは、継続的な学ぶとか継続的に自らを啓発できるとか、そういうようにするといいのかもしれない。そうすると、3の個性的なライフスタイルとの関係も出てくる。また、4のみんなで作るまちというのも、前回までの議論を踏まえれば、少し変わってくるかもしれない。

子どもを育て(1)、大人になってからも学ぶことができ(2)、そして、学んだことを活かして活動、活躍できる場をつくる(3)、こういうことで人が育つというような3本の柱がよいかもしれない。

(2) 基本構想全体について

(委員) 第1回の全体会でも言ったが、現況のところは、市民意識だけでなく、客観的な数字のデータが欲しい。周南市の特徴として、人口データは当然入ってくるが、昼間人口、産業別の人口、財政の数字的なものも実際にはどうか、ということも出してほしい。

時代の潮流について、7項目も個別に書く必要があるかどうか。必要であれば、もう少し整理したほうがよい。この総合計画の策定の目的を「新しい周南市の確立」としたい。どこのまちでも同じように時代の潮流がこうだから計画を作るということではなく、合併して新しい市になって初めて作る計画であるので、その基礎を作るというような、時代の潮流よりは周南市の状況を書くことが必要。策定の趣旨や計画策定の背景のところ、合併のことをもう少し書き込んでほしい。

目標人口について、17万人にこだわる必要があるかどうかはもう一度議論すべき。新市建設計画の目標人口ということではなく、策定する現在の状況の分析の必要。あくまで目標ということではよいのかも知れないが、昼間人口を増やすことに重点を置く、というような検討をする必要があると思う。

(3) 第5章 目標1と目標5の修正案について

(部会長) 目標1と目標5について、前回までの議論を踏まえて修正したものをお配りしているので、これに沿って議論していきたい。

(事務局) 修正案を朗読。

(部会長) 修正のポイントを整理すると、

- ・輝くということと心の豊かさとの間に何かつなぐものが必要ということで書き加えている。
- ・青少年の健全育成のところでは、いじめなどの問題があるからやらなければならないという認識で書かれていたが、青少年の育成はそういう問題があるかと無かろうと重要であるということで修正。ただし、いじめなどの問題は基本計画では入れる必要がある。
- ・学校教育のところでは、学校間、学校と家庭の連携が必要ということで書き加えている。
- ・生涯学習のところでは、その意義を加えている。また、専門性の高い内容もいるという意見があったので、それを含めた生涯学習という範囲を設定している。
- ・文化芸術活動については、それが心豊かにということに通じるということを書き加えている。
- ・国際化への対応については、国際化ということが心の豊かさにつながるという観点から書き込みをすると同時に、国際協力について、環境問題への取り組みなどの情報発信と、海外からの来訪

者の受け入れ体制の充実ということを書き加えている。この場では、環境問題を周南市として解決するというのではなく、周南市が国際化するためには、国際社会の一員としてこんなことをしているということを情報発信していくことが必要だろうということである。

- ・目標5の表題については、ほかの目標と視点が違う、目標になっていない、手段ではないか、という議論を踏まえて、「一人ひとりが尊重されるまちづくり」にしている。
- ・(1)については、市民参画というのはもう古いという意見があって、市民の活動、行政の活動が相互乗り入れをして、お互いに一体となってやれるような仕組みが大切であるという議論を踏まえて、「市民と行政のパートナーシップの構築」という表題にしている。また、その中で、地方分権について、そうなるからやらなければならないという表現になっていたが、そうなるから、個性を活かしたまちづくりができる、やっていこうという書き方に変えている。情報公開の重要性についてご意見があったので加えている。参画についても企画の段階からということと、逆に市民のいろんな活動に市の側も積極的に参画をするということを書き込んでいる。
- ・人権の尊重と男女共同参画社会の実現については、項目を分けたらという意見があったが、分けると人権のほうの中身が少ないということと、人権の尊重と男女のお互いの人格の尊重ということとで一体のほうがよくいのではないかとということで、現時点では一緒にしている。

(委員) 青少年の健全育成のところ、「青少年は社会の大切な宝物」というところを、物というのはいくはないので、「宝」ということにしたほうがよい。

(委員) 青少年の健全育成のところ、青少年とはどの範囲かという議論もあったが、学校教育だけ別に項目を分けるのがいいのかどうか。青少年の健全育成の中に、学校教育と子育て支援というような構成にしてはどうか。基本計画のほうはよいと思うが、ここでは、(1)と(2)を分ける必要があるのかと思う。

(部会長) 青少年の健全育成という表題については考えなければいけないのかもしれない。ここでの一番の眼目は学校教育もさることながら、地域がみんなで一体となって、ということにあるのではないと思う。やはり、学校教育の項目よりも前に、地域で全体として次代を担う若者を育てるという項目が必要ではないか。

(委員) (2)の「学校教育の充実」という項目に対してであれば、(1)は「青少年の健全育成」というよりは、「地域教育力の拡充」とかのほうが、テーマがはっきりしてよいのではないか。

(委員) 例えば、「地域を愛するたくましい周南っ子を育てる」とか。

(部会長) 「若者」というのもキーワードとしているような気がする。少し考えてみたい。

(委員) 市民活動については、「一人ひとりが尊重されるまちづくり」のところに入るのか。

(部会長) 前回の議論では、目標3の「安心して生活できるまちづくり」にコミュニティが入っているので、その育成とか拠点づくりということはそちらに入れて、そういうものを活用して市民と市が一体となってまちづくりを進めるための仕組みづくりをするということをこちらに残すということだったかと思う。

(委員) 生涯学習や文化芸術活動などの、市民参画という視点ではない市民活動の支援については、目標1の方に何か入れられないか。

(部会長) 全体にかかわってくるので、計画の中で個別のところに入れていってもよいのではないかと。それぞれのところには、団体の育成というようなことで入っているようだが。

(委員) 他の部会の内容になるが、コミュニティという言葉でいいのかどうか。他市の計画では地域活動という言葉が使ってあるところもある。旧徳山ではコミュニティに特に力を入れてきたという

ことで、これでいいのかもしれないが、それで固まってしまうのは。

(部会長) この間の議論では、市民活動は地域を越えたある目的に基づく活動で、コミュニティは地域に根づいた市民の活動という理解でよかったか。

(委員) 市民活動の中に、コミュニティ活動があるということではないか。特に旧徳山市だけの課題かもしれないが、コミュニティがしっかりしているので、「市民活動を支援する」ということが、イコール「コミュニティを支援する」というような、コミュニティ以外の生涯学習や文化活動などの市民活動の存在感が弱いという感じがする。

主要プロジェクトの「個性的なライフスタイルを応援するまちプロジェクト」の中に、市民活動の支援を入れてはどうか。

(部会長) 主要プロジェクトで先程3つの柱として整理したもので言うと、確かに3つ目の「活動の場」として、市民活動があるということなのかもしれない。

(4) 基本構想全体について

(委員) 第1章の「周南市の課題」があるが、これを解決するのがプロジェクトであるはずだが、この主要プロジェクトでは対応していないのではないかと。課題のうち、2番目の超高齢少子社会への対応については、子育て支援ということに重点を置いて、子どもを大切に、人を大切にすることでもまだわかるが、まず拠点性の向上がきているし、3番目の安全で災害に強いということに対応してしない。また、循環型社会の構築と自然環境の保全については、周南市としてはもっと打ち出してもいいと思うが、主要プロジェクトにはあがっていない。

都市像を実現するためのプロジェクトとしては対応しているが、課題を解決するためのプロジェクトとしては対応していないのではないかと。

(事務局) 課題を解決するために、大きく5つのまちづくりの方向性を決めて進めていく、ということが基本的な考え方である。課題の解決が即、プロジェクトという考え方もあるかとは思いますが。

(部会長) 行政のできること、というのがあっていいのではないかと。具体的な施策レベルに降りていったときに、行政として何ができるか、何に重点を置くかということに行き着かざるを得ない。環境問題への取り組みなどは、もちろん市としてもやらないといけなことがあるが、一義的には企業の取り組みということになると思われる。そういう考え方でいくと、市として力をいれるべきなのは、次を目指した人づくりであるということはいいいのではないかと。書き方の問題があるとは思いますが。

(委員) 拠点性の向上を市としてやらないのであればわかるが、施策としてもあがっている。あまり力を入れないということであれば、課題の順番を変えるべきではないかと。最初にくる項目が一番の課題だろうと受け取ってしまう。人づくりに力を入れるということであれば、(2)や(4)を先にしてはどうか。

(委員) 第1章は、市民意識も含めて、背景が書かれているところなので、課題の順番に関して違和感はないと思う。

(委員) 市民の意見がこうであるなら、拠点性の向上に対応するプロジェクトを組んでいないとおかしいのではないかと。

(事務局) 拠点性の向上については、主要プロジェクトにはあがっていないが、新市建設計画の21のリーディングプロジェクトのメインとしてあがっており、それを推進していくことにしている。

(委員) それなら、構想の一番後ろではなく、新市建設計画の推進をするんだということを主要プロジェクトにあげてはどうか。

- (事務局) 構想の最初のところで、この総合計画は新市建設計画を包括するということが記載している。
- (委員) 包括するというのがいいのかどうか。今回合併して総合計画を作る意味は、新市建設計画をもとに、考え方は尊重しながら、本当にやるべきかどうか、見直すということだと思う。
- (委員) 包括ということで、位置づけは総合計画のほうが上であるのでいいのではないか。
- (事務局) 新市建設計画は、変更できないということではないが、合併協議の中できちんと決定され、議会の議決も得ているものである。
- (委員) 新市建設計画は、そのままやるべきではないと思っている。財政計画としても、21のリーディングプロジェクトが全て実施できるかどうかわからないという議会での答弁もあったように聞いている。合併するために調整して作ったのが新市建設計画という認識であり、それを合併後にもう一度議論して、見直す必要があるのでは。新市建設計画を策定する段階で市民に本当に議論されていないので、ここでもう一度きちんと議論しないといけないのではないか。「新市建設計画を包括します」ということで本当にいいのか、ということ。
- また、もし包括するということであれば、主要プロジェクトは、そのまま21のリーディングプロジェクトになるはず。
- (委員) 主要プロジェクトというのは「プロジェクト」という言い方がよくない。プロジェクトというよりは、一番大事にする価値観なのではないか。プロジェクトという言い方でなくなれば、人づくりを大事にして進めていくということではないかと思う。
- (委員) 主要プロジェクトが「考え方」ということであれば、先程、具体的なものが見えないからということを言われたが、リーディングプロジェクトを主要プロジェクトとして書いたらどうか。
- (事務局) 地域審議会に諮ったときに、包括するということが書いてあるので、リーディングプロジェクトを推進することは当然なのだから、推進方策の中で新市建設計画を推進するということを書いておけばいいのではないかという意見だった。
- (委員) 地域審議会は、新市建設計画を守ってくれという立場であり、そういう意見は当然出ると思う。この審議会では違う立場で論じないといけないのではないのか。
- 21のリーディングプロジェクトと、さらに主なプロジェクトを別にやっていくというようなことは、財政的にも余裕はないのではないか。
- (事務局) 新市建設計画については、この10年でやっていくという基本的な考え方がある。その中で、やれるものは前期、前期でやれないものは後期、そして後期でできないものは見直しを図るということで、執行段階できちんとやっていくという判断である。
- (委員) 主要プロジェクトが「人」をテーマにしたものでいいのか、という議論も必要ではないか。
- (委員) 人が育っていけば、目標実現に向かえるのではないか。人でよいと思う。
- (委員) 人づくりが大切というのは当然のことで、全国どこでもそうである。人が大切ということに対しては、誰からも異論はないと思うが、拠点性の向上などがやれないから、人ということにしているだけではないかという気がする。
- (部会長) そういうご意見についても、審議会で議論しないといけない。
- (委員) 一般の市民には、実施計画がないと基本構想、基本計画だけでは意味がわからない、意見が言いにくいということがある。市民にとっては、実施計画を見てはじめて基本計画の内容を具体的に検討できるのではないか。実施計画を見せてもらえないか。
- (事務局) 実施計画については、現在作成中であるが、三位一体の改革の影響等もあって、さらに見

直しをしないといけない状況であり、現時点ではお示しできない。

(委員) 基本構想は目標であるので、やりたい内容であるが、実施計画はやれる内容で出てくるのでギャップがあるということもある。

(委員) 具体的なことが出せないまでも候補事業ということでもいいので、示してもらえないのか。

(部会長) 実施計画は、実施の見通しがハッキリしないと出せないというのはわかるが、基本計画の内容をブレイクダウンしたものは出せるのではないか。事務局で検討してほしい。